

# 令和3年度 第1回釧路市総合教育会議

日 時：令和3年11月22日（月）15:00～16:40

場 所：防災庁舎5階 災害対策本部室

構 成 員：蝦名市長、山口教育委員、松尾教育委員、種村教育委員、小出教育委員、岡部教育長

市側出席者：菅野総合政策部長、大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、  
三富学校教育部次長（総務課長）、早坂学校教育部次長（学校教育課長）、  
澤口生涯学習課長、橋本都市経営課長、富田総括指導主事、  
大島総務課長補佐（教育）、木村教育支援課長補佐、小西都市経営課長補佐、  
菅野都市経営課主任、古屋都市経営課主事

関係資料：

【資料1】釧路市教育大綱

【資料2】「生きる力の育成の推進」について

## 1. 開会

菅野総合政策部長）

・これより、令和3年度、第1回釧路市総合教育会議を開催する。

## 2. 市長挨拶

菅野総合政策部長）

・開催に当たりまして、蝦名市長に、冒頭御挨拶をお願いします。

蝦名市長）

- ・教育力は行政の縦割りではなく、全体を考える必要がある。
- ・この地域における教育力を高めるため、学校教育所管だけでなく、北海道、市、民間、生涯学習も含めて行ってきた。
- ・本日のテーマは教育大綱の3つ目「生きる力の育成」ということで、多岐に渡る分野であり、行政の垣根を越えて、横ぐしを差し込むような形で進めていきたい。
- ・文部科学省が進めている施策も重要ではあるが、我々地域が考えていくことが大切。忌憚のないご意見をいただきたい。

## 3. 議題

菅野総合政策部長）

・それでは、議事に移らせていただく。

### （1）「生きる力の育成の推進」について

菅野総合政策部長）

・平成30年度から令和2年度にかけては、教育大綱の基本的な考えの2つ目「成長の段階に応じた切れ目のない教育」をテーマとして、意見交換および総合教育会議を実施した。

- ・本日は釧路市の未来を担う子供たちが、今後の予測困難な社会の中で、自らが担うべき役割を見出し生きていく力を身に着けるため、教育大綱の基本的な考えの3つ目「生きる力の育成」をテーマに、現状の課題や今後の方向性などを探っていきたい。
- ・幅広い分野になるが、その中で今後どうしていくか議論していければと思う。
- ・まずは、教育委員会より現在の状況や取組みについてご説明いただきたい。

#### 大坪学校教育部長)

別添資料に基づき、教育委員会が進める「生きる力の育成の推進」に向けた取組について説明。

#### 山口教育委員)

- ・先日開催された教育懇談会の中では「読書活動」がテーマであった。小学校では、家庭の本がなくても、中央図書館やボランティア等、教育委員会から学校に対するバックアップが充実し、図書に親しんでおり、その結果が学力に反映しているとのことだった。
- ・生涯学習部として、これから中学校に対しても取組を進めていきたいと説明があったが、具体的なことがあれば説明頂きたい。

#### 津田生涯学習部長)

- ・山口委員からお話し頂いたように、小学校と連携した読書活動サポートセット、ブックフェスティバル等、様々な機会を通して小学生が本に触れ合う時間が充実してきた中で小学校の学力が全道平均を上回ったことは一つ取組の成果だと考えている。
- ・中学校においては残念ながらそのような状況ではないため、中学校でも同じような仕組みを作れないか事業検討しているところ。
- ・予算化について今後調整が必要だが、学校教育部と連携しつつ本と親しむ機会の創出を行いたい。

#### 山口教育委員)

- ・ぜひ中学校に対しても行政として支援を進めていただきたい。
- ・教育懇談会后、中学校の読書活動充実について自分なりに考えた。小学校では、図書ボランティアが図書室の運営などを実施しているが、中学校にそのまま適用できるかという点、発達段階の違いもあり難しい面もある。しかし、中学校では図書委員がいるので、子供の活動をどう促していくかが大切な視点。子供たちの組織、魅力的な活動を生徒に示していくことが重要と考える。

#### 小出教育委員)

- ・小学生は図書室に楽しそう、嬉しそうに行くが、中学生になると、図書室の場所さえ分からない生徒も多いといった落差を感じた。中学校では図書室があまり活用されていない。図書室に新書が定期的に入っているにもかかわらず読まれていない。毎日図書室が開いている学校もあれば、そうでない学校もある。生徒が読書活動に親しむには、まず図書室に行くことから始まると思う。
- ・全中学校を視察した結果、音別中学校の取組は素晴らしかった。音別中は生徒の活動が盛んなだけでなく、放課後学習で図書室を利用するなど、生徒が図書室に日常的に行く仕組み・環境を作っていた。

#### 菅野総合政策部長)

- ・放課後学習会はすべての中学校で行っているのか。

#### 大山教育指導参事)

- ・大半の中学校で実施している。週の実施回数は学校によって違いがある。

### 種村教育委員)

- ・中学生になると本を読まなくなる。中学生は部活・塾・受験等活動が多く、そういったことで本から遠ざかってしまう。
- ・最近、中学生の読解力が弱く文章をきちんと読みこなせていないと感じる。国語だけでなく、問題が読めないから他の科目に影響している。例えば理科の文章問題も正答率が低く、理科に対しての苦手意識ではなく、読解力に課題があるのではないか。

### 蝦名市長)

- ・当然だが学校教育の対象は子供。しかし子供の環境作りは学校だけでなく家庭の環境作りも大切であり、子供が読書する家庭環境をどう作るか。例えば親に読書週間がない家庭で、子供に読書を求めていることが出来るだろうか。
- ・新聞を取っていない家がどれだけあるだろうか。家でテレビを何分つけているか。子供にゲームの時間を制限しても、自分がずっとテレビを見ているなんてありえない話。
- ・家庭の内政干渉という話になってしまうが、子供の家庭を変えることは、親に対する「気づき」を、どういう形でメッセージしていくかが重要。
- ・国で進めているGIGAスクールについて、1か月ほど前の情報だが、タブレットで読んだ記憶は書籍の記憶の3分の1くらいに落ちるとのことだった。文部科学省の発表だったと記憶している。

### 早坂学校教育部次長)

- ・タブレットを活用した場合とメモに直筆した場合は、記憶の刻み方が異なるといったデータもある。

### 岡部教育長)

- ・現在、文部科学省は紙の教科書とデジタル教科書をどのように取り扱うか迷っている状況である。

### 山口教育委員)

- ・「生きる力」のために読書が必要なことはその通りで、いろいろな方面で確認されている。先日の教育懇談会においても、市P連の方や地域の代表として連合町内会の方が出席したが、学校で本を読ませる、小学校中学校連携して読書の日を設けるといった意見も出ていた。その際、親も一緒に行っていくべきと、連合町内会の役員も重く受け止めていただいた。
- ・教育委員会から家庭への直接的なアプローチも必要である。親に対しては、連合町内会を所管する市民環境部との連携も必要になっていくと思う。

### 蝦名市長)

- ・連合町内会は高齢者が多く、辛い面もある。

### 松尾教育委員)

- ・「家庭に本がない」というデータではなく「本がない家庭の子供は学力低い」「本がある家庭の子供は学力が高い」などもっと直接的な表現でデータを示すことも必要だと思う。
- ・本を読む人が少なくなった時代、スマホで読む人もいるが、本を読むことが好きな人は、ページをめくり、しおりを挟んでといった、紙で読みたい人が多いと思う。

- ・家庭の「ノースマホデー」「読書の日」は、全市を上げて取組まないと子供に定着していかない。
- ・「生きる力」は、子供に色々な経験をさせることで、読書もその一つ。本がどれだけ必要なのか、まずは家庭に浸透させる必要がある。
- ・色々な経験ということで、現在キャリア教育として各学校で「ジョブカフェ」を実施しており、子供たちが楽しく、大人の話をしっかり聞いて、非常に良い体験だと思う。今後、市役所の各部署の話子供たちにするのも良いことだと思う。大人も、自分たちの仕事に自信をもって子供たちに伝えることが良い経験にもなる。

#### 菅野総合政策部長)

- ・子供の時、読書が学力に繋がるとの考えはなかった。読書量が学力に結び付くという観点を、教育だけでなく市全体で捉えていくことが大切。

#### 蝦名市長)

- ・学校は勉強を教えるところ、受験勉強は塾というように、どうしても縦割りに分けて、他人事のようにになってしまう。そうではないと気が付いて理解してもらうことが必要。
- ・そのために教育現場、学校現場がどうやって出していくか。出し方を考えないと、全部学校でやることだ、と学校に来る。家庭環境のことまで学校に言われても困ってしまう。
- ・そのため総合教育会議があって、学校だけでなく、家庭や地域の教育力がある。
- ・その気づきを出せるのは教育現場しかなくて、他の場所でも出してもただの感想と思われる難しさがある。

#### 菅野総合政策部長)

- ・キャリア教育の話で、先日、総合政策部長としてJC（釧路青年会議所）の会議にパネリストとして参加した。JCは教育委員会と連携協定を結び様々活動しているが、「地域」として教育をどのように考えるかの課題提起から、地域全体としてかかわる形、未来地域協議会のような組織づくりの話題もあった。
- ・北海道教育大学 小林准教授からは、教職員が子供たちの将来を考え指導していくべきだが、1対1の指導の難しさ、限界もあるということで、地域としての関わりが重要との話が合った。

#### 岡部教育長)

- ・「生きる力」の定義として、「知・徳・体」と定義しているが、必ずしも合ってはならず、子供たちが自分の判断できる、判断する力を持たせることが「生きる力」だと思う。
- ・今、大学卒は3割、高校卒は4割が早期退職するというデータがある。その後はフリーター、非正規になる。キャリア教育が必要とされる最たるところ。
- ・先日、JCとキャリアシンポジウムを行い、約1,000人の中学生とオンラインで対談し、時間の都合で応えきれないくらいの質問を受けた。働くこと、AIにとって代わる職業等の質問だった。
- ・自分で考えること、働くこと、学ぶこと。我々はいかに子供たちを刺激していくかが重要。
- ・市役所では様々懇談会のようなものがあって、色々な意見が出ていつも良い話だったで終わってしまうが、今後どう具体的な形にしていくかが我々の仕事。しっかり市P連と協議し、連合町内会にもキ

キャンペーンPRをしてもらうだけでも良いから巻き込みつつ、具体化していこうと考えている。

#### 山口教育委員)

- ・小中高の発達段階に応じてキャリア教育を進めてきている。教育委員会とJCのタイアップがあり、高校生は商工会議所とも進められて、体系化されてきていると感じている。
- ・しかしもっと細分化して、小学校入学前も踏まえ、小中高ではどのようなキャリア教育・体験が必要か体系的にまとめていくことで、小学校ではこういう取組があって、高校ではこういう取組をするから、中学ではこれが必要だといった、現場で前後の見通しができるようになると思う。
- ・大山参事に聞きたいが、キャリア教育で先進的な、大館市の取組について参考になるものはありましたか。

#### 大山教育指導参事)

- ・最も大きいのは「どのような子供を育てるのか」がはっきりしている。進路指導ではなく、「生き方」指導。9年間の義務教育期間を通して「生き方」指導が進められている。

#### 蝦名市長)

- ・釧路市が言うキャリア教育とはどういう定義するのか。人によって捉え方が異なるように感じる。

#### 山口教育委員)

- ・学校現場では、キャリア教育は「生き方」指導として認識している。

#### 蝦名市長)

- ・「生き方」指導としながら、地元の会社PRがキャリア教育だと思っているところもある。根幹には多様化する世の中での「生き方」指導があると受け止めたが。

#### 大山教育指導参事)

- ・学び方も含めての「生き方」指導である。先生に教えてもらうだけでなく、探究的な勉強も求められる。

#### 小出教育委員)

- ・親の立場としては、「生きる力」は教育長と同じく、大人になった時に自ら切り拓く力だと思う。
- ・先日中学2年生を対象とした「ジョブカフェ」が開催された。いろいろな職業人が自分の仕事を紹介し質疑応答していたが、仕事を紹介するだけでなく、どういう姿勢で働いているのか、仕事に対する考え方、仕事に対する誇りが伝わってきた。ただの職業体験では得られない、子供たちの仕事に対する見方を変えられる経験だった。企業側も真摯に対応し、中学生の目線に立って将来を見据えて応えてくれる人が多かった。中学生に伝わっていれば良いと思う。
- ・しかし学校によって生徒の質問内容に差異があり、先生の関わり方によって生徒の受け止め方も違うと感じた。
- ・大山参事の言う「生き方」指導、まさにそういう仕事の紹介ではなく、キャリア教育とはそういうも

のではないかと思っていた。

- ・このような場面でも「生き方」指導が学校現場に行き届いていればより一層充実すると思う。
- ・今の「ジョブカフェ」は中学2年生のみ対象だが、色々な学年でこのような経験をすることで、子供たちも違った見方が出来るため、このような取り組みを体系づけて進めていただきたい。

#### 岡部教育長)

- ・今の小出教育委員の発言は、市長の質問に対する回答になるかと思う。
- ・キャリア教育とは、卒業したら地元で働いてくれというものではなく、JCとの連携も地元で働くことが入口ではあるが、社会の中で働いていくことがどういうことかを学んでもらうことがキャリア教育。
- ・そのため「ふるさとキャリア教育」というネーミングは誤解を生む。

#### 蝦名市長)

- ・その定義は明確にするべき。小学校・中学校までは「生き方」「学び方」のキャリア教育を進めて、高校生以降は別物になる。同じ「キャリア教育」という言葉だから誤解を生む。
- ・中間層の可処分所得（経済的豊かさ）のデータを示すべき。毎年国土交通省が都道府県別に可処分所得のデータを出しているが、中間層の全国最下位が東京都、一番高いのが三重県で、北海道は30位くらいだった。
- ・東京は給与が高くとも、可処分所得では実は最下位ということはしっかり提示していくべきだが、教育の話ではないため、教育現場の取組とは一緒にせず分けて考えていく。

#### 菅野総合政策部長)

- ・収入から支出を差し引いた可処分所得の話。東京は家賃等出費も嵩むため大手で働いたとしても可処分所得が下がる。
- ・行政としては、子供の選択肢を広げ、生き方・選び方の基礎・土台となるものを作ることが役割。将来地元に残るのか、東京へ出ていくのか選択させることになる。小中学校の間はそこまでがっちり進路を決めないが、義務教育の中でどこまでできるか。

#### 岡部教育長)

- ・そこが義務教育の弱点。全国的に同じだが、都道府県教育委員会と市町村教育委員会の関わりが弱い。
- ・高校に上がるとふるさと教育・地元教育のようなものが無くなる。道教委もふるさと教育を掲げているが、何もやっていない。

#### 蝦名市長)

- ・小出委員が言うような素晴らしい取組みが「キャリア教育」という言葉に含まれてしまう。どうとでも取れる言葉は良くない。
- ・自分が学生の時大学進学率が2割程度であったが、今は真逆になっている。そういった変化している状況を踏まえて、やっていることを正当化して言えるような整理整頓をして、共通認識に立つことが大事。

### 山口教育委員)

・キャリア教育と離れるが、道立の高等学校と市教育委員会との関わりが弱いと教育長がおっしゃっていた点について、不登校対策で、義務教育では相談窓口や不登校の子の受け皿を市教育委員会で行っているが、道立高校は市教育委員会から離れ道教育委員会になる「高1ギャップ」がある。釧路市内の子が中学校を卒業し高校進学後、保護者がどこに相談したらよいか迷ってしまう事例があるが、市町村教育委員会が直接手を出せないという課題がある。

### 岡部教育長)

・システムは直せばよいが、道教委の上の方も市町村教育委員会と連携するよう言っていると思うが、現場はそうはなっていない。

### 山口委員)

・高校の意識改革が必要。小中連携が充実している中で、中高連携協議会も組織上はあるものの、今後具体化していく必要がある。

・義務教育のキャリア教育で大事なことは、釧路で生活している大人の姿勢にも関わってくるが、子供たちが釧路で生まれ育ったことに誇りをもって大人に成長していくこと。

・大人もそういう姿を子供に見せていく、子供に定着させることが重要だと感じた。

・地元で頑張る子も、中央に出て活躍する子もいてよくて、しかし根っこでは釧路で育ったことを誇りに思っていて大切にしたい。

### 菅野総合政策部長)

・まちづくり基本構想の計画の中で、愛着度の市民アンケートについて、10年前から比較して増えたという結果が出ており、釧路にずっと住みたいという人も増えている。昔に比べ、地元に住んでいる大人の釧路への思いも増えてきている。

・ここまで「生きる力」ということで幅広い議論となった。読書や家庭教育の取組検討や、釧路市が考えるキャリア教育の定義の共有化といった課題があったが、今後釧路市としてどのような方向性を持って進めるか。

### 蝦名市長)

・文部科学省が言う「知・徳・体」と、教育長が言う「社会で生きる力」、どう解釈するか翻訳作業が重要。同じイメージを持つことが大事。

### 種村教育委員)

・「生きる力」をテーマにしたとき、教育視点では「褒める教育」を大事にしている。褒めることで脳内アドレナリンが活性化し、脳を喜ばせて子供は変わる。自信が付く。

・早期退職が多いのは忍耐力が弱まっているから。日本の企業の98%は中小企業であり、どこで働いてもそんなに環境は変わらないので、いかに忍耐力を持つか。教育で培っていく必要がある。

**菅野総合政策部長)**

- ・ 忍耐力はどのように育てていくか。

**種村教育委員)**

- ・ いやなことでもやることである。やりきったという経験値。

**菅野総合政策部長)**

- ・ 早期退職でも、転職のため上昇志向をもって辞めるのであれば良いが。やはり忍耐力も必要。

**山口教育委員)**

・ 読書活動の話に戻るが、先日アメリカ大リーグで MVP となった大谷選手は非常に本を読む方とのこと。物事に対し、A という視点で論じる本と、違う B という視点で論じる本を読み、違う視点の本を 2 冊読むことで自分なりの判断をしているとのことである。たくさん本を読むからこそ、的確な判断力、場に応じた適切な判断が出来る人間に育ったのではないか。

・ 先日の教育懇談会で、中央図書館に勤める日野先生も「本が面白ことに気づいて、のめりこんでもらう。そのためにも読書活動は大切」と話していた。

・ 1991 年の湾岸戦争、ミサイル攻撃の映像がニュースで放映された際、幼稚園で読み聞かせを経験させていた園児とそうでない園児で反応が違ったとの話がある。幼稚園で読み聞かせをしていない園児は「ゲームみたいで楽しい」といった感想だが、読み聞かせをしている園児は情景を想像して、現地の人々への被害まで想像出来て涙したとのこと。絵本・読書活動の経験が人格形成に与える影響を推して知るべきだろう。

- ・ 釧路市として大キャンペーンを張っても、釧路市の子供たちに本を読ませる取組をするべき。

**松尾教育委員)**

・ 忍耐力の話で、スポーツも重要。少年団や部活動を通して、勝つこと、負けること、努力することを知る。スポーツを通じて、子供同士、指導者との人間関係、コミュニケーション、そういうのも普通の学校生活では得られないこともある。チャレンジ精神も出てくる。

・ 大谷選手は夢をもって成長されていった方だと思う。自分がどうなりなたいのか、なりたい姿に向けてどう進んでいくのか。あまり考えられていない子供も多いが、自分が目指すものをどの段階で見つけられるかは、すごく大事だと思う。早めに見つけて、その目標に向かって努力していくことが大事。

- ・ そのために、どのような本を読むか。夢を持って、自分がどんな人間になりたいか考えること。

**菅野総合政策部長)**

・ 「生きる力」のため、読書のこと、キャリア教育のことと共通認識を持てたが、具体的なものはまだまだ議論が必要。行政として方向性を見出すため、学力や不登校対策だけでなく、このような場を通して今後も考えていきたい。

- ・ 教育委員会だけではなく、市長も含めて、政策レベルで長いスパンで取り組んでいきたい。

**岡部教育長)**

- ・読書活動については、市P連や連合町内会と具体的に進めていきたい。
- ・来月子供だけのパネルディスカッションがあり、読書をテーマに子供たちに語らせ、聞かせる。
- ・このような読書の流れは市長が切り出したものだが、今年度下半期は読書をテーマに横断的に進めていきたい。

#### 4. その他

なし

#### 5. 閉会

菅野総合政策部長)

- ・それでは、以上をもって、令和3年度第1回釧路市総合教育会議を終了する。

(了)